

1. 評価結果概要表

作成日 平成21年1月21日

【評価実施概要】

事業所番号	0392500021		
法人名	株式会社金ヶ崎福祉フロンティア		
事業所名	介護予防施設西光荘グループホーム		
所在地	〒029-4503 岩手県胆沢郡金ヶ崎町西根和光554-2 (電話) 0197-43-2340		
評価機関名	特定非営利活動法人いわての保健福祉支援研究会		
所在地	〒020-0021 岩手県盛岡市中央通三丁目7番30号		
訪問調査日	平成20年10月16日	評価確定日	平成21年1月21日

【情報提供票より】(平成20年10月 1日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 18 年 4 月 1 日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	9 人	常勤 7 人, 非常勤 2 人, 常勤換算	7.8 人

(2) 建物概要

建物構造	木造造り		
	1 階建ての		1 階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	24,000 円	その他の経費(月額)	光熱水費・リネン代18,000円
敷金	無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	無	有りの場合 償却の有無	無
食材料費	朝食	円	昼食 円
	夕食	円	おやつ 円
	または1日当たり 1,000 円		

(4) 利用者の概要(10月 1日現在)

利用者人数	9 名	男性	1 名	女性	8 名
要介護1	2 名	要介護2	1 名		
要介護3	4 名	要介護4	1 名		
要介護5	1 名	要支援2	0 名		
年齢	平均 80 歳	最低 72 歳	最高 93 歳		

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	国保金ヶ崎診療所、高野胃腸科内科医院、あべ歯科クリニック
---------	------------------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

介護予防施設西光荘グループホームは、小規模多機能型居宅介護事業所が併設されているほか、同一敷地内には日帰り温泉施設がある。この天然温泉はホーム内においても利用されており、利用者の楽しみとなっている。周囲には酪農地が広がり、四季折々の自然を一望することができる環境のなか、季節の行事や地域の習慣を大切にしながら、ありのままの暮らしを尊重している。また日常の活動に加えて、地域のボランティアの協力を得て、歌や踊り、生け花など利用者の趣味や楽しみごとを一緒に行い、楽しみや喜びを共有しながら、利用者のいきいきとした生活を支援している。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	前回評価では、介護計画の具体的な作成に関して課題とされていたが、職員の気づき等をもとに朝のミーティング時に職員間で課題等について話し合いを行っており、介護計画に反映しながら、その充実に努めている。
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	自己評価については各職員が記入したものを管理者及び補佐が取りまとめている。多忙な業務のなかで、全ての項目について理解するまでには至らなかったとしているが、必要と思われる項目について話し合い、サービスの向上に努めている。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	併設する小規模多機能と合同で2カ月に1回定期的に開催しており、利用者の状況やホームの活動内容について、また職員体制等の運営面に関する報告を行っている。会議を通してホームに対する理解を得るとともに、利用者及び家族を含めた地域を代表する委員からの様々な意見を得ることにより、地域との交流の在り方等について考える機会となっている。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	家族の来訪時や電話等を通じて、利用者の近況を伝えるほか、ホームの広報誌を年4回発行して、活動の様子をお知らせしている。家族会は設けられていないが、面会時に意見交換をするほか、管理者や介護相談員が意見や相談をいつでも受けられるよう体制を整えている。なお、相談等があった場合には必要な話し合いを行い、速やかに検討することとしている。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	毎月ホームを訪れるボランティアによる踊りや歌を楽しむ機会があるほか、施設内で行われている生きがいサロン等に参加する人々との交流の機会がある。また隣接する温泉施設の利用客がホームに立ち寄り、利用者と会話を交わしている等、近隣住宅が少ないながらも利用者と地域住民との顔馴染みの関係が継続されている。

（ ☐ 部分は重点項目です ）

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	設立時に地域密着型を意識して定めた西光荘の基本理念に加えて、「ゆったりと、楽しく・自由にありのままに・仲間と一緒に喜びと自信を」という独自の理念を作りあげている。さらにこれらを実践するために4つの指針を定めている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念及び指針について朝のミーティング時等で話題に挙げて、職員間での共有を図っている。理念に加えて4つの指針を定めた事によって、各職員が実践に向けた一日の目標や課題を意識するようになったとしている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	毎月ホームを訪れるボランティアによる踊りや歌を楽しむ機会があるほか、施設内で行われている生きがいサロン等に参加する人々との交流の機会がある。また隣接する温泉施設の利用客がホームに立ち寄り、利用者と会話を交わしている等、近隣住宅が少ないながらも利用者と地域住民との顔馴染みの関係が継続されている。	○	運営推進会議で意見を得ながら、今後地域の催しである運動会や盆踊りへの参加を計画していることから、より多くの地域住民がホームについて理解する機会となるよう期待する。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価については各職員が記入したものを管理者及び補佐が取りまとめている。多忙な業務のなかで、全ての項目について理解するまでには至らなかったとしているが、必要と思われる項目について話し合い、サービスの向上に努めている。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	併設する小規模多機能と合同で2カ月に1回開催しており、利用者の状況や職員体制に関する報告を行って、会議を通してホームに対する理解を得るとともに、利用者及び家族を含めた地域を代表する委員からの様々な意見を得ることにより、地域との交流の在り方等について考える機会となっている。		

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	2カ月に1回行われる地域ケア会議や町が主催する勉強会等へ参加しており、意見交換や相談を行う機会となっている。このほか町担当者とは介護保険に関する相談を持ちかけ、助言を得ている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	家族が面会に来た際に利用者の様子をお知らせしているが、頻繁に来訪できない家族へは電話で報告している。また年4回発行している広報紙にて、活動の様子などをお知らせしている。金銭管理については出納帳のコピーと領収書を家族へ渡して、確認を得ている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時に意見交換をするほか、管理者や介護相談員が意見や相談をいつでも受けられるよう体制を整えている。なお、相談等があった場合には必要な話し合いを行い、速やかに検討することとしている。	○	これまで家族から直接不満等が出されたことはないが、意見を表すことのできる場づくりとして、アンケートの実施等を考えているとのことであり、今後に期待する。
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	複数の職員の入れ替えがあったため、管理者をはじめ職員の協力のもと、今年度はその体制の安定を重視して取り組んでいる。職員間での話し合いの機会を持ちながら、利用者とのスムーズな関わりに配慮するとともに、職員自身が抱える不安等の緩和に努めている。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	口腔ケアや虐待等に関する内部研修を実施し、実践に向けた取り組みの共有に努めている。このほか職員が受講するヘルパー研修等の日程に合わせて、勤務時間を考慮するなどの対応を行っている。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム協会の定例会へ参加のほか、研修後の交流会等の機会に他の施設との交流を図っている。また近隣地域のグループホームとの交換研修を実施している。		

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居に至るまでには状況に応じて、職員が本人の自宅を訪問したり、本人や家族にホームの見学をして一緒に食事をとったり、宿泊体験等が行われている。それらを通して本人の個性を知り、また職員や他の利用者となじみの関係を築きながら、本人が安心して入居できるように努めている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜ぶ哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	昔ながらの踊りを一緒に踊ったり、畑仕事を利用者と一緒にやる際には、種まきや畝づくりのコツを教わっている。利用者の生活歴から得意なことを把握して一緒にやることにより、当時の出来事を話題としながら、知恵や工夫を学んでいる。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者一人ひとりと向き合い、声掛けをしながら、日常生活の中で本人の表情や行動より思いや意向を職員がくみ取っている。職員が気づいたこと等は申し送り等により、職員間での情報の共有に努めている。	○	日常生活から利用者の意向を読み取る以外にも、家族との話し合い等の機会に聞き取りを行うなど、継続的なアセスメントを行うことにより、利用者の具体的な介護計画の作成にも活かされるものと思われる。
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	日常における利用者の様子から気づいたことを記録して、朝のミーティング時に職員間で課題等について話し合いを行っている。また担当者会議を開催して、必要な関係者と話し合い介護計画を作成している。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	状態の変化がない利用者は3か月に1回の見直しを行うこととしており、その都度担当者会議を開催している。利用者の状態に変化があった場合については、家族等へ連絡して意見を聞きながら、介護計画の見直しを行っている。		

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援(事業所及び法人関連事業の多機能性の活用)					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	家族に代わって通院支援を行う際に、希望に応じて利用者の自宅に立ち寄るなど、方法を工夫しながら利用者本人や家族の意向に沿った支援がなされている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域支援との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用者本人や家族の意向を尊重しながら、かかりつけ医への継続受診が行われている。家族の付き添いによる通院を基本としながらも、緊急時等には職員が通院支援を行っている。また訪問診療を利用し、適切な医療が受けられるよう支援している。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	利用者の重度化が少しずつ進んでいることを実感しているなか、できる限りホームでの生活が継続できるように取り組んでいる。医療処置を必要とする利用者への対応については、看護師を中心としながら全職員が協力して取り組んでいる。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	着替え時にさり気なく扉を閉めたり、言葉遣いに気を付け、互いに注意し合いながら羞恥心に配慮した支援を心掛けている。また個人情報の取り扱いについては、利用契約時に本人及び家族に対して説明のうえ同意を得ており、適切な取り扱いを行っている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ドライブなどの外出や毎日の散歩など、利用者一人ひとりに声をかけながら意向を確認して、本人のペースや希望に沿った支援を心掛けている。またタバコを楽しみとしている利用者があり、周囲への影響に配慮しながら、その楽しみを継続できるように対応を工夫している。		

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	料理の下準備や後片付けを利用者と一緒に行っており、食材について話をするなど楽しみながら食事ができるよう支援している。なお、献立は事前に決めているが、当日の変更についても対応している。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	夜間の入浴は実施していないが、広い浴槽での入浴を希望する利用者は、併設する小規模多機能の浴室で入浴することができる。また利用者が入浴を拒む場合には、声掛けをしながら足を洗う事からはじめて、自然に全身につなげるなどの工夫を行っている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	若いころから畑仕事をしてきた利用者はその経験を活かしてホームの畑で野菜を栽培し、また花を生けることが好きな利用者はボランティアと一緒に活動している。また隣の小規模多機能で行われるレクに参加するなど、楽しみごとを行うとともに交流が図られている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	ドライブや買い物に出かけるほか、日課としてホームの建物の周りを散歩している。その際には歩行器や車いすを準備して、身体の負担とならないよう配慮しながら外出を支援している。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	居室には鍵はなく、正面玄関は自動ドアのため自由に入ることができる。一人で散歩に出かける利用者もいるが、安全な外出となるように、職員の見守りにより対応している。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	火災訓練を年2回実施することとしており、消防署の立会いのもとで行っている。また地域の関係機関等の連絡網を作成しているが、今年地震による建物への被害があったことから、地震を想定したマニュアル作成を検討している。	○	利用者及び職員のほか、地域住民と一緒に訓練できるように進めていくことにより、災害時には地域住民の協力が得られるような体制づくりを期待する。

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	月に2回食事内容を写真に撮り、町の管理栄養士に見てもらいカロリーや栄養バランスの確認や指導を受けている。また日常的には食事量・水分摂取量の確認を取っているほか、食事形態については刻みや軟食にするなどの利用者に合わせて対応している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	吹き抜けの明かり窓から柔らかな日差しが入り込み施設内全体が明るく暖かい居住空間となっている。廊下にはソファが置かれており、いつでも自由にくつろげる環境である。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室にはベッドとタンスが据え付けてはあるが、それ以外に家族が準備したタンス等もある。また利用者が自分で書いた書道等や家族の写真を飾ったりと居心地よく過ごせるよう工夫している。		